

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症を理解し、常に尊敬の気持ちを持ち、人として当たり前の生活が送れるよう家族と共に支援している	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今日の介護実践を再認識のため朝礼時理念を復唱している。介護提供状態や、対応の仕方など、気になる場面などある場合、理念に沿った実践が出来ているか確認し合っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	近所の方からの問い合わせには丁寧に説明をしている。2. 3ヶ月に一回運営推進会議の開催。ホーム便りを近所へは回覧。玄関掲示板へ掲載。家族へは面会時お渡ししている。ホームページも掲載し誰でも見れるようにしている家族一緒に取り組んで行きたい旨を常々話し、協力を頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を届けたとき事業所の行事へのお誘いのときの世間話や、朝夕の帰宅時挨拶をしている。散歩コース沿いの高齢者の方へ話しかけたりお茶へのお誘いをしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・民生委員、ホーム主催の行事に近所の方にも参加して頂けるよう案内を出したりしている。生き生きサロンへ参加。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施できていない	○	運営推進会議で区長から地域の要望などを聴取してみる
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を読み内容について理解してもらい、求められているものを把握し日々の介護に活かすよう努力している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で出された内容について、職員へ報告し検討を行い、改善に向けての書式作成を行ったりしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・事故報告書提出時、担当の意向など伺い、再発防止に生かしている ・要望や疑問など気軽に相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットやブロック別研修会で計画し、職員が学ぶ機会を作っている。	○	研修への積極的な参加
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外泊からの帰苑持身体の異常がないか（虐待）確認している。発見時は家族へ異常の原因について確認している。職員へは常々、虐待防止について話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は申し込み用紙には施設への要望の欄を設けている。家族が話しやすい、雰囲気作りに心掛け、十分時間作り説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・率直に意見を出される事が多く、本人からの話を十分聞き、解決していくようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に近況報告及び金銭出納帳の確認、捺印をいただいている。職員の移動に関しては簡単報告をしている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の設置 ・面会時に近況情報を必ず伝え意見を聞き取るようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや日々の中で意見や提案など聞き、改善の方向で検討している。管理者は運営者に職員の意見を報告し改善してもらえよう進言している		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・可能な限り勤務希望を聞き入れ平等な勤務表を作成。 ・業務上支障ない限り勤務交代も許可している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・離職はあえて利用者様へは報告しないが尋ねられた場合は伝えている。精神的に不安定な状況はないか観察し安心できるよう接している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・均等に法人内外の研修へ参加させている。月1回のミーティング時研修報告をしている。 ・業務を通して、指導している。 ・施設の学習係りが年間計画に沿って研修を行なうようになっているが計画的に行なわれていない	○	積極的に研修参加を計画
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と相談、訪問したりする機会がある 県のグループホーム協議会の方針が変わり、串間、南郷、日南のブロック単位での施設管理者が集まり、管理者、介護実践者の研修交流会を今年度は4回開催する事となった。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員へ勤務状況について聴取 ・前向き思考を推奨 ・明るい雰囲気作り ・ケアに入って現実に体験してみる	○	メンタルヘルスの研修の受講
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	随時訪問の時、労をねぎらう言葉や、年3～4回理事長、事務長を囲んでの慰労会（食事）、職員個々と会話ができるよう心がけている。 研修も積極的に参加を呼びかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の情報収集の時間を十分取り、質問に対応している		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の情報収集の時間を十分とり傾聴を心がけている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用対応はしていないが自施設で出来る限り支援を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の生活習慣を知り、本人の意思を確認しながら家族の協力も得ながら徐々に施設のスケジュールに入ってこれるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いつも近い距離を保ち、どうすれば日常生活支援が楽しく過ごせるか、反応を見ながら支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族面会時には気さくに話し、入居者の中に入ってもらったり、居心地良く過ごせるなど雰囲気作りをしている。 ・行事もお客様でなく、準備にも家族の協力をいただけるよう案内文内に入れ込んで、協力していただくようになっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には感謝の言葉や日頃の労をねぎらう言葉かけを行い入居者の状況報告し家族としての要望をきくよう努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソン（長男）から長女との接触は断るよう依頼されているが、長男夫婦は仕事、体調不良を理由に面会、外出もない状況で、長女は遠方からでも安否伺いの連絡を定期的にされるため、キーパーソンには内緒にしていたが、家族に本人の様子を伝え、了解していただいた。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事時、お茶の時間など職員が間に入り利用者同士の会話が弾み、個々の会話が出来る雰囲気作りに努めている。頼まなくても食事の遅い方に声かけたり口に運んでくださったりなどの行為がある		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	不定期ではあるが、仲の良かった入居者と共に訪問したりしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りを十分に行い、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、居宅支援事業所の介護支援専門員からの情報収集を十分に行い把握している	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	行なっている	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	行なっている	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ほぼできている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護日誌に日々の情報を記入し計画の見直し時の情報に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望が出やすい配慮を職員一同心がけ、相談に乗ったり可能な限りの支援を行なっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生の施設体験交流や教師の研修、民生委員訪問など積極的に受け入れている。今後も継続を要望している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在他のサービスの利用はしていないが必要に応じて利用はしたい		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を第一とし、かかりつけ医との良い関係を作り、適切な医療が受けられるように配慮している		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居前の診断は専門医でとお願いしているが、診断書をかかりつけ医が書かれることもある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設が看護師配置があり、かかりつけの病院の看護師と相談しやすい関係があり健康管理や医療的支援を行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはサマリーを提出。入院時は付き添い、入院中も面会の機会を多く持ち、医療職と関わり、最小限の期間の入院になるよう連携している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針に署名をもらい、意向の確認は行なえている。具体的な話し合いや方針はその都度で対応		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る事出来ないことの見極めは大まかにはできている。かかりつけ医とのチーム支援まではいっていない		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前調査時に詳細に説明し退居時にはサマリーを提出している		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に尊厳ある声かけをするよう心がけている。申送り時本人が居るような場合はイニシャルでしている日誌は事務室の鍵のかかる書棚に保管。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	1対1での会話に努め「～しましょう」でなく自己決定が出来る「～してみませんか」の声かけをしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望、生活リズムに配慮しながら自分らしく生活できるよう努力している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	男性は理髪店に家族が連れて行かれている。歩行困難な方（女性）は希望を確認して、定期的に美容師に来縁してもらい定額料金で行っている。衣類補充時は		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き、盛り付け、お膳の準備を職員と共に。施設の栄養士が献立作成、栄養管理を行っている。行事や頂き物の野菜がある場合、誕生日には混ぜ寿司やケーキを作っている。週2回手作りおやつで楽しんでいる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒に関しては許可されており、希望があれば対応している。タバコは禁止が入所の条件になっている差し入れは希望がある場合疾病がない限り対応している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄のパターンを把握し日中は定時誘導で対応		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お湯を張り希望に沿って入浴対応している(週／3、4回)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の安眠が得られるよう、日中はホールでレクや交流の時間を持つようにしている。消灯時間までテレビ鑑賞を希望があれば対応している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の把握をし、利用者の要望を聞き、状態に合わせて対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の楽しみ支援している入居者9人中一人のみ家族の希望で金銭所持されている。金銭管理が困難な入居者は預かり金をしていて、買い物時の支払いは職員が代行。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	人員及び業務の時間帯などで一人ひとりの希望に沿っては出来ないが、管理者の外出時や図書借り出し時外出したり、雨天以外は毎日散歩の時間を作っている。徘徊が長く続く場合戸外へ出かけるなどしている	○	買い物や散歩など多く出かけるよう努めたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員では年に最低4回出かけている。多く出かけたが介助の人が多くなり職員のみでは事故などが心配のため家族の参加を募り外出している。ホテルバイキングに行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は随時対応している。家族の面会も比較的多く手紙のやり取りまではしないですんでいる。家族へ自分で手書きの年賀はがきを出している。新入居の海外に在住の娘さんからの希望がありインターネットでのテレビ電話の設置を行なうなど要望に応えている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時は快く笑顔で対応している。自室でゆっくり話していただけるよう椅子やお茶の配慮をし、帰りの際には又の来訪をお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日ごろから拘束しない介護を目標としている。身体拘束廃止委員会の設置。緊急やむをえない場合も十分検討し手順を踏んだ場合のみ拘束する方針を全職員統一している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	離苑の経歴がある入居者に対し、全職員が常に目を離さず、見守り、居室玄関に鍵をかけない事としている。・職員の手薄な場合のみ短時間の玄関の施錠は行なっている。	○	今後も鍵に頼らないケアに取り組んで行きたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在、様子などプライバシーに配慮しながら安全を確保する介護を行なっている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の認知度、理解度、管理能力に応じ自己管理を行なっている。施設の物品（はさみカッター）は事務所管理としている。薬などは事務所で保管。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事例時に即、原因、対応について検討し、再発防止に生かしている		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルや勉強会、研修受講。全ての職員が出来るまでにはいたっていない		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練の実施。 月初めの避難経路、消火器設置箇所の確認が継続して行なっている。火災発生時の消防署への通報内容を暗記し、非常時に的確に言えるよう毎朝のミーティング前に復唱している	○	次回の自衛消防訓練時近隣の方の参加が多くなるよう努力したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクの高い人はその都度、それ以外は認定更新時に説明し情報の共有を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前中の軟膏塗布は看護師が施行。体調の変化や入浴時身体の異常時は看護師に報告。記録し送りしている。申し送り時には注意して観察して欲しい事を明確にし情報を共有し異変時は報告するよう指導している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方がある度に薬情書を提示、日誌に薬品名を提示し申し送りをしている。薬の作用についてはほぼ理解している。全身状態や血圧など毎日計測し効果のチェックを行なっている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士によるバランスの取れた食事の提供と水分摂取が出来るよう働きかけている。ラジオ体操、リズム体操散歩などの運動を行なっている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で出来る人には毎食後の歯磨きの声かけ。介助の必要な方は毎食毎に義歯を外し、くるりーなブラシを使い口腔内の食物残渣物の除去。歯科医の訪問診療を依頼するなど義歯、口腔内清潔、摂食嚥下について指導をしていただき実践に生かしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を提供。毎食毎及び午前午後に水分補給している。一回の量が取れない人に対して回数を多くしたり、好みのもので対応したりしている。透析を受けている方は水分の制限がある為、一回の量を決め職員全員が把握すること。摂取量と飲水可能な量をリーダーを中心に把握しながら調整をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルがあり実行している	○	年間学習内容に定期的に計画し、確実に実践できるようにしたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生の食材は毎日取引先から運ばれてくるようになっている。調理用具は1日一回はハイター消毒を行い調理台、戸棚の拭き上げをしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外から見やすい位置に木製の表札があり玄関には草花が植えられ親しみやすく癒される雰囲気がある		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁絵作成や花などを置いたり、カーテンなど採光の調節を行なっている。リビングは天井が高く畳敷きのスペースもあり居心地よく出来る工夫がある		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスへの出入り口にある椅子に座って話したり、うたた寝したりされる。また庭のテーブルで食事を摂ったり日光浴やお茶をしたり利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	仏壇と座椅子。使い慣れた椅子、クッションなどの 持ち込みはある。壁に家族の写真を貼ったりし て居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室に換気扇設置。冷房・暖房中は昼食時・夕 食時の2回換気を行なっている。温度計設置し快 適温・室温設定を周知徹底出来るようにしてい る。消臭剤の使用も臨機応変にしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリーでトイレ廊下に手すりを設置 ベッドへ移動用のバーの設置。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	家族の許可を得、居室の入り口の壁に氏名や写真 を掛け分かりやすいように配慮。食堂のテーブ ル、歯磨きセットの戸棚にも氏名を表示し、ある 程度自立していただくよう工夫している。 日めくりカレンダーを数箇所置き、日にちの確認 が出来るようにしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	花壇、プランターが設置してあり季節ごとに野菜 や花など植えたりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・介護職員全体の65%が介護福祉士であり、認知症介護実務者・管理者研修受講者が3名が勤務し、専門的な介護サービスを提供している。
- ・施設の真向かいに東クリニック（事業主）があり救急の対応が可能。
- ・看護師配置があり、医療や健康管理が充実し、安心できる施設。
- ・栄養士の献立でバランスの良い食事の提供が出来る。